

過去から

未来へつなぐ

防災



↑平成29年10月23日早朝の弓削交差点前の様子

生活安全課 消防防犯係(防災センター) ☎58-3703

空振りでもいいから避難! 危険を感じたら すぐ行動することが最も重要

「平成29年台風第21号」を経験

夜9時ごろ、やむ気配のない雨の中、農機具倉庫の様子を見に行きました。集まったみんなが機械を上へ持っていくと話しましたが、その時はみんなが「まさか」と思っていたのでそのままにしておいたんです。結果、浸水し、機械はだめになってしまいました。これが人の命だとなると、後から笑い話になってもいいから早期に避難すること、対処することが肝心だと、つくづく思いました。この経験から「西日本豪雨」の時は2階へ上げるなどの対応ができました。しかし、区民の命をあずかる区長の立場として、どのタイミングで避難してもらうのかを判断するのはとても難しいと感じます。台風第21号の浸水後は、避難所への移動は危険な

ので自宅の2階で避難することになった人が多く、身動きが取れなくなってしまいました。避難が長引かなかつたので、食料などの備蓄に困ることはありませんでしたが、この経験から、各家庭で意識して「備え」を行っておくことが大切だと感じた人も多かったと思います。弓削は昔からの教えで宅地の高上げなど水害対策はできていますが、避難に対するマニュアルがありません。避難をして空振りだったとしても、後から笑える方がいい。早期に避難、対処できる弓削独自の防災マニュアルを作成したいと強く思いました。被災したからこそ、過去の歴史を振り返りながら防災対策を区民みんなで考え、若者たちにも伝えていきたいと思っています。



平成30年度 弓削区長
まつせ きよし
松瀬 清さん

1.2.台風21号による弓削集落内の被害 3.浸水前の集落。各戸ごとに高上げの高さが違うのは過去の経験に基づくもの 4.平成30年3月には安吉橋のふもとに「竜王町北東部地区防災拠点」が整備され、ボートなどの水防用資機材などを格納した水防倉庫が設置された

大災害の傾向と対策

災害は、いつどこで発生するか予想ができません。直近では、今年6月に「大阪北部地震」、翌7月に「西日本豪雨」が発生し、住居の倒壊や土砂災害などで多くの尊い命が奪われました。また被災後の人々の生活にも重大な影響を与え、その被害の甚大さは目を覆うものばかりでした。

竜王町においても、これまでに大きな災害が起こっています。平成25年9月13日に発生した「台風第18号」では、川守地域(妹背の里周辺)や弓削・西川・西横間地域などが浸水、また鏡山などでは土砂崩れが発生し、日野川の最高水位は6・39mを記録しました。この台風によって、同年8月末に運用が開始されたばかりの「特別警報」が初めて発令されています。

また、平成29年10月22日から23日にかけて滋賀県内に大きな被害をもたらした「台風第21号」は、前線の影響により雨が長く降り続いたため、日野川の支流である新川の堤防が決壊し、主に弓削地域一

帯が浸水する被害を受けたほか、強風による影響で家屋の一部損壊や倒木が生じるなど大きな被害を受けました。

さらに過去をさかのぼると、昭和34年の「伊勢湾台風」は、全国にわたって甚大な被害を及ぼした台風で、竜王町でも弓削地域一帯が浸水しましたが、多くの家が宅地を高上げていたため、実際に浸水した家屋は5戸程度であったと記録されています。

竜王町は、日野川を排水先とする多くの河川があります。大雨が降ると日野川の水位が上昇するため、小河川や水路から雨水があふれる場合もあります。たとえ小さな川でも、堤防が決壊したり洪水が発生すると広範囲にわたって浸水するため注意が必要です。実際に「西日本豪雨」でも、堤防の決壊によって、住宅の2階まで浸水し、避難することができなかつた住民たちの救助される姿が報道されました。刻一刻と変化する状況を判断し、危険が迫る前に避難することが、いかに重要であるか教訓となった大災害でした。

川と共に暮らす私たちは常に最悪の事態に備えておかなければなりません。取り分け竜王町の中でも日野川と隣接し、過去から洪水の危険性と隣り合わせであった弓削地域は、先人の教えに目を向け、その教訓から宅地の高上げ対策がほとんどの家に見られます。昨年の「台風第21号」でも浸水などの被害に見舞われましたが、幸いにも人的被害は無く、

過去の「伊勢湾台風」の被害に比べ最小限にとどめることができましたのは、過去の災害を後世に伝えてきた先人たちの教えによる「減災」といえます。例年、秋には台風や豪雨など風水害が多く発生します。どんな災害にも日ごろからの備えが最大の策となります。今一度、家庭や地域で災害への備えを見直してみましよう。



「昭和34年 伊勢湾台風」弓削地区(正福寺前)



昭和19年の水害の様子(小口地区)

竜王町の過去の水害(抜粋)

平成29年台風第21号(竜王町)

主な被害状況	
人的被害	0件
床上浸水	1戸
床下浸水	2戸
家屋一部損壊	10戸
堤防決壊(新川)	4カ所
停電	11集落
車両被害	20台
農地の冠水	200ha

昭和34年 伊勢湾台風(弓削)

主な被害状況	
床上・床下浸水	5戸

昭和19年の水害(小口)

祖父川、小口地先(右岸)が決壊し、水かさが増したため、住宅2戸が流出した。

※出典:小口史



家屋から避難するとき

家屋から避難するときは、火の元を確認し、ブレーカーは必ず切ります。家族や援助活動をしている人に安否を知らせるため、各世帯に配布されている「竜王町防災安全確認カード」を玄関先などに掲げます。

動きやすく、安全な服装で

どんな災害でもヘルメットで頭を保護し、靴はひもでしっかり締められる運動靴を履いておくことが安全です。特に水害時には避難経路がひどく冠水している場合、歩ける深さは男性で約70cm、女性で約50cmといわれています。危ないと判断した場合は無理をせず、高所で助けを待ち、救急隊に救援を求めましょう。

避難情報の種類と取るべき避難行動

- #### 避難準備・高齢者等避難開始情報

避難勧告や避難指示(緊急)を発令することが予想される場合

 - 避難に時間を要する人(高齢者・障がい者・乳幼児など)は避難を開始しましょう。
 - その他の人は避難の準備を整えましょう。
- #### 避難勧告

災害による被害が予想され、人的被害が発生する可能性が高まった場合

 - 速やかに避難場所へ避難をしましょう。
 - 外出することでかえって命に危険が及ぶ状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。
- #### 避難指示(緊急)

災害が発生するなど状況がさらに悪化し、人的被害の危険性が非常に高まった場合

 - 緊急に避難場所へ避難をしましょう。
 - 外出することでかえって命に危険が及ぶ状況では、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。

災害時の安全な避難ポイント

水害避難時の服装

- 頭はヘルメット
頭を守るため、防災ずきんやヘルメットを着用
- 長そでまたは雨カッパ
傘でなく雨カッパを着用して、歩きやすい服装で避難
- 荷物はリュックサック
両手が空くように非常持ち出し品はリュックサックに入れて背負う
- 運動靴○長靴×
脱げにくい丈夫な靴(長靴は水が入ると動きにくくなります)を履く
- 長めのつえ
浸水した道路を通らなければならぬ場合、つえを使って足元の障害物を探りながら進む

避難行動とタイミング

「避難すること」は防災への備えの一つです。災害から身を守るためには、自分の命を守る「自助」、地域住民で助け合う「共助」、行政が行う「公助」の全てが大切です。

風水害や土砂災害など災害の危険が生じる恐れがある場合には、町から避難に関する情報を発令します。情報は災害の危険度に応じて3段階に分けて発令されますので、各情報に対応した避難行動を取りましょう。避難情報が発令されます。

また、避難するときは、一人一人が思いのままに避難すると危険が伴います。家族や近所の人たちと一緒に避難しましょう。近所に自力で避難することが困難な高齢者や障がいのある人がいる場合は、みんなで協力し、助け合いましょう。避難経路がひどく冠水している場合は、無理をせず、救急隊に救援を求めましょう。

竜王安心ほっとメール

町内の防災・防犯・交通事故防止などの身の回りの危険に関する情報を電子メールで配信されます。

【配信内容】避難情報等災害情報・気象情報・地震情報・土砂災害警戒情報・国民保護情報など

登録方法や操作方法などが分からない場合は生活安全課へご連絡ください

登録方法は町ホームページをご覧ください。
竜王町 検索

実際に災害が起きたとき慌てずに行動できるよう、災害時の備えをしっかり行いましょう。安全に避難するためには、避難経路が安全であることが重要です。地震と風水害では避難経路や避難場所が異なることもあるので、平常時から洪水ハザードマップや自治会または町で指定されている災害ごとの避難場所を確認しておきましょう。また、携帯電話やインターネットなどを活用し、防災に関する情報収集の方法やその手順をあらかじめ確認しておくことも肝心です。

そして、忘れてはならないのが、非常時の持ち出し品の準備です。大災害の発生時、公的な支援物資はすぐに届くとは限りません。また、床上浸水などで家屋内で救助を待つ場合にも、家に備蓄品を用意しておく、いざというときに役立ちます。各家庭で「非常持出袋」を用意し、家庭の状況にあった持ち物を考え、必要な物を入れてまとめておきましょう。

Jアラート

内閣官房からの国民保護情報や気象庁からの地震速報、気象警報などをJアラート受信機により受信し、有線放送や携帯電話のエリアメールに接続している自動起動装置によってその情報が町内へ一斉放送・メール配信されます。

エリアメール

地震発生時や災害時に竜王町内におられるNTTドコモ、KDDI、ソフトバンクモバイルの携帯電話をお持ちの人に対して、回線の混雑の影響を受けずに一斉に緊急災害情報が配信されます。

情報収集をして危険度を把握

しらがメール

滋賀県内の防災・防犯などの身の回りの危険に関する情報を電子メールで配信されます。

【配信内容】避難情報・河川水位情報・雨量情報・土砂災害警戒情報・気象警報・注意情報・地震情報など

テレビ・ラジオ・新聞などから

テレビ・ラジオ・新聞・インターネットなどの天気予報に注意し、天気の移り変わりに気を付けましょう。また災害時には被災状況に応じて使えるメディア情報を選んで情報収集をします。

町・各自治会から

避難情報や災害状況については、トランペット放送、町ホームページ、安心ほっとメール(登録者のみ)、町広報車などによりお知らせします。また、各自治会からも連絡されます(連絡方法は各自治会によります)。

避難場所や避難経路を確認

自治会または町で指定されている避難場所がどこにあるかを確認し、安全に移動できる経路を普段から確認しておきましょう。

地震のとき	ブロック塀や積み上げた木材、崩れやすい崖など、余震で崩れる危険のある場所に注意	風水害のとき	側溝にふたやガードレールがなく、増水時にどこまでが道路か分からなくなる場所に注意
-------	---	--------	--

「非常持出袋」の準備

避難するのに必要なものや避難所で必要なものをまとめて目の付きやすい所に置いておきましょう。

飲料水、非常食、身分証明書、懐中電灯、乾電池、救急セット、ティッシュ、雨具、手袋、タオル、おむつなど

日ごろの備えが重要